

第41回全国消防殉職者慰靈祭

第41回全国消防殉職者慰靈祭は、岸田内閣総理大臣、寺田総務大臣、谷防災担当大臣代理星野内閣府副大臣をはじめとするご来賓の方々と新たに合祀された御靈のご遺族、都道府県のご遺族及び全国消防関係者のご参列のもと、9月15日（木）ニッショーホール（港区東新橋）において、執り行われました。

日本消防協会では、昭和57年以来、毎年、全国消防殉職者慰靈祭を行っており、本年は8柱（やはしら）の御靈が新たに合祀され、明治5年からの消防殉職者等の御靈は、5,784柱となりました。

今年も感染症への警戒は続けざるを得ないなかでありましたが、十分な感染防止対策を講じたうえで、昨年とは異なり、規模は縮小としましたが3年振りに全国のご遺族の方々にご参列頂き、約220名のご参列者のもとで挙行することができました。式典では、内閣総理大臣、総務大臣及び遺族代表の「追悼のことば」を頂き、その後、参列者の皆様による献花が行われ、厳粛のなかに執り行われました。

現在、日本消防会館（港区虎ノ門）は建て替えに伴い、東新橋のヤクルト本社ビルに仮移転し開催されたものになります。



【式辞 日本消防協会 会長 秋本敏文】

相次ぐ台風の発生や今も警戒が必要な新型コロナ問題など、現地の消防関係者にとって気がかりなことがあるなかではございますけれど、消防使命に殉じられた方々に対する深い哀悼の思いのもと、これより第41回消防殉職者慰靈祭を執り行わさせて頂きます。

本日は、公務極めてご多忙のなか、岸田内閣総理大臣、寺田総務大臣、星野内閣府副大臣をは

じめとする多数の方々のご参列を頂きました。まことにありがとうございます。心から感謝申しあげます。

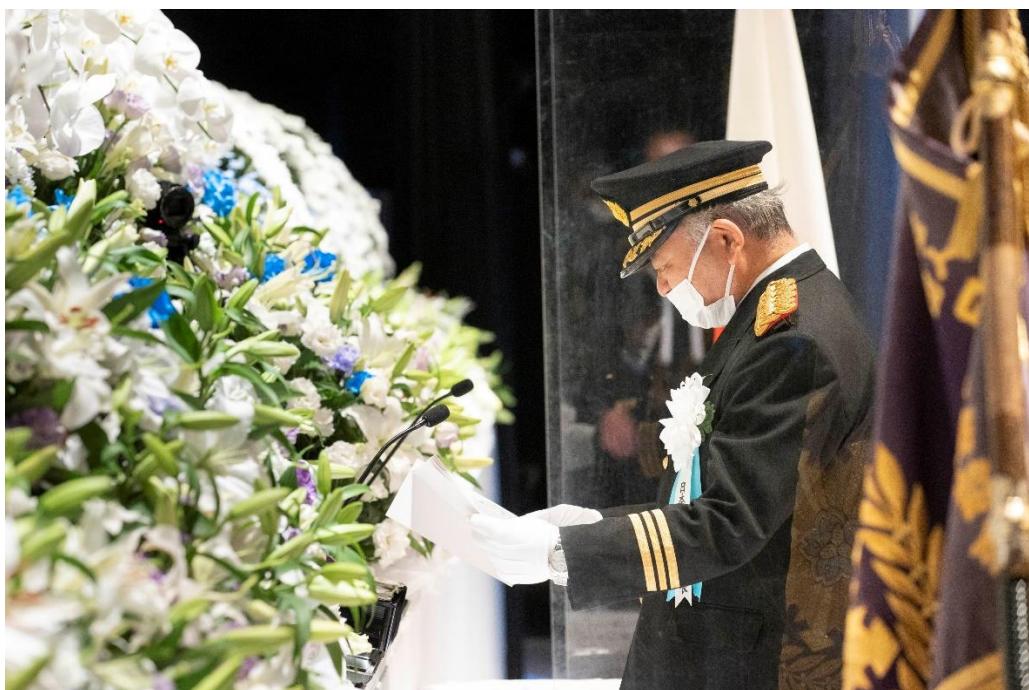
さまざまな災害、事故の現場で全力を尽くし、尊くも職に殉じられた御靈に対し、衷心より敬意を表し、深く感謝申しあげ、安らかなご冥福を心よりお祈り申しあげます。ご遺族の方々には申しあげる言葉がない思いでございますが、何とぞ、心穏やかなお幸せな日々をすごされますよう、お祈り申しあげます。

消防関係者は、平成23年の東日本大震災において230柱もの多数の方々が殉職される等の苦しい経験を経ながら、殉職事故をなくすよう、力を合わせて努力してまいりましたが、本年も8柱の御靈を合祀することとなりました。その結果、合祀の御靈は5,784柱となります。誠に申し訳ない思いでございます。

近年、災害の様相が変わり、本年も大型台風のほか、長期にわたる各地での大雨災害がございました。大規模な地震発生も予測されています。社会経済の様子も変わっています。そのようななか、消防は、地域の安全を守り、国民の皆様の安全、幸せを守り抜くため、その使命を果たしていくいかなければなりません。そのためには、巾広いさまざまな活動が必要となり、さまざまな危険との接触が生じてまいります。しかし、どのような事態でありましても、消防の皆さん自身が安全に行動できるようにすることが、国民の皆様の安全を守るために必要な基本であります。消防は、これからも関係者の皆さんのお知恵、お力を頂きながら安全確保に全力をあげなければならないと思います。このことに力を尽くすことは、職に殉じられた方々の無念の思いにお応えする私どもの責務であると存じます。

本年の慰靈祭は、新型コロナ感染症問題を考慮して、例年よりご参列頂く方々の数を絞らせて頂きましたが、岸田内閣総理大臣をはじめとするご来賓のご参列を賜り、私どもとしても心からの哀悼の思いのもと誠心誠意開催させて頂きました。

最後に、職に殉じられた御靈に対し、あらためて深く敬意を表し、感謝申しあげ、安らかなご冥福を心からお祈り申しあげまして式辞とさせて頂きます。



秋本会長による式辞



沖山副会長による開式のことば



御靈の奉納



岸田内閣総理大臣による追悼のことば



寺田総務大臣による追悼のことば



遺族代表による追悼のことば



秋本会長による献花



遺族代表による献花



岸田内閣総理大臣による献花



寺田総務大臣による献花



谷防災担当大臣代理 星野内閣府副大臣による献花



新合祀遺族による献花



参列者による献花



参列状況



鎮魂の歌（木遣り）【音源提供 江戸消防記念会】



秋本会長あいさつ



延近副会長による閉式のことば

